

尾瀬ネットワーク通信



Vol. 22. No. 2 2019年8月

----- 目 次 -----

「地球温暖化と尾瀬・そして私たちの取り組み」.....1.2

「電気バス出発セレモニー」日に第 1 回入山指導.....3

群馬側第 1 回活動報告.....4

福島側第 2 回活動報告.....5.6

事務局便り.....6

「地球温暖化と尾瀬・そして私たちの取り組み」

副理事長 初谷 博

はじめに

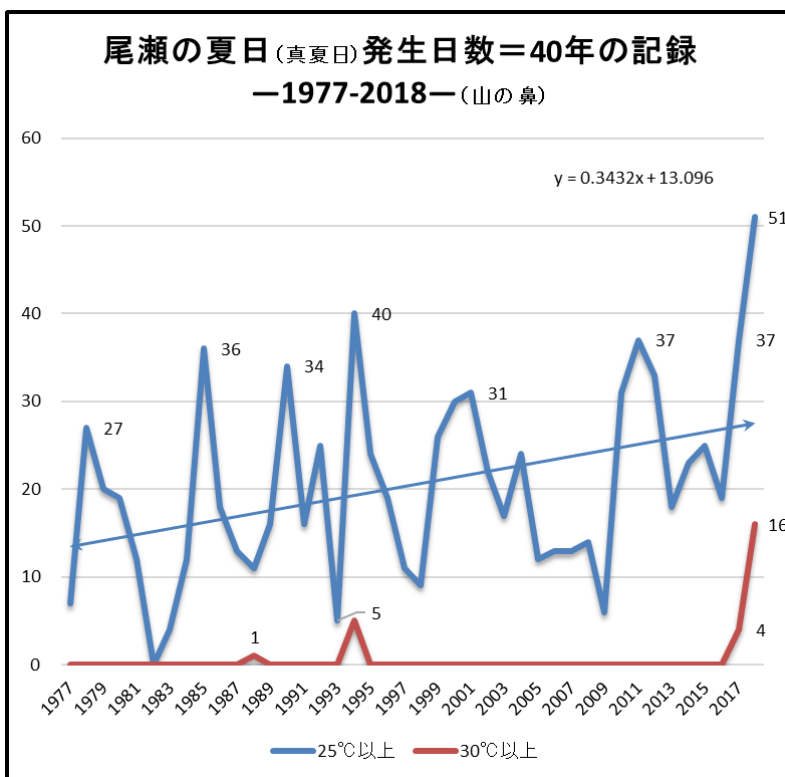
先日、自宅の書庫を整理していたところ、片隅から一冊の分厚い本が出てきました。それは十数年前に購入して大きな衝撃を受けた「不都合な真実」著者アル・ゴア アメリカ元副大統領の本でした。

この間の事柄を振り返りますと、私的にはなりますが、人生の大半を勤め上げた鉄鋼会社を早期退職し、地方の金属加工会社に転職して太陽光発電屋根材の開発、販売を手掛け、またプライベートでは本ネットワーク活動に地球温暖化影響調査のテーマアップをさせていただ

きました。紙面に限りがありますが、現状とこれからの取り組みを述べさせていただきます。

1. 地球温暖化の主要原因となる発電の現状

温暖化現象は地球を取り巻く大気中の温室効果ガス、おもに二酸化炭素が宇宙に放出されるはずの熱をさえぎるために起こります。特に元凶となる二酸化炭素の40%は発電に伴うもので、自然エネルギーの太陽光や風力発電に比べ、石炭火力発電はなんと約30倍の発生量になります。ただ



し昨今、再生可能な自然エネルギーの太陽光発電の買い取り価格見直しや引き下げなど逆風が吹いており、エネルギー転換の具体策は示されてお

りません。一方、さらに少ないとされている原子力発電は政府のエネルギー基本計画に沿って、基幹電力として全体の20から22%までまかなうとされて

おります。しかしながら、福島をはじめとする原発の廃炉技術課題や再稼働によって生ずる高レベル放射性廃棄物の処分問題など山積する課題を抱えております。

2. 尾瀬に生ずる温暖化の影響

(1) 気温の上昇(大山副理事長の解析資料より)

2018年夏の尾瀬は気象観測(標高1400m地点=山の鼻)開始以来、記録づくめの高気温でした。夏日(25度以上)は51日、うち16日は30度を超える真夏日を示現。最高気温は33.2度まで上昇。42年間の観測では、夏日は年20日間、真夏日の示現は10~15年で1回程度ですが、2018年は16日間も発生しました。

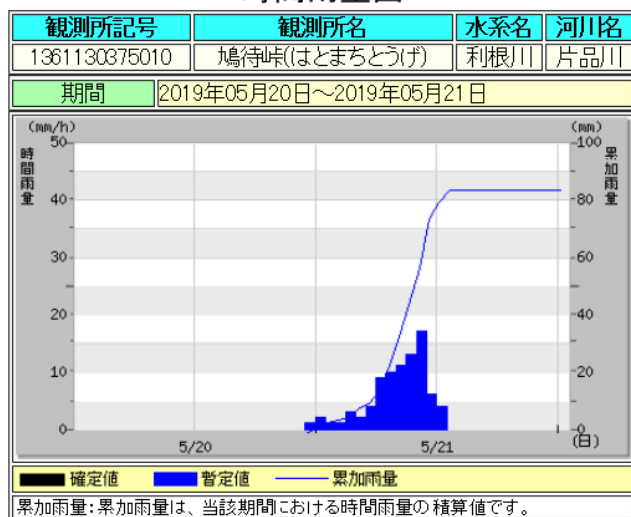
梅雨明けも昨年より2週間以上遅く、冷夏とまで言われた今年(2019)の夏日は、5月に3日間、6月は1日、7月は9日間でした。(7/30現在)

(2) 異常な降雨



2019年5月21日に12時間で84mmという短時間豪雨が尾瀬に降りました。

時間雨量図



Water Information System By MLIT 2002

尾瀬の湿原は、水の集積地にあります。そのため少しの降雨でも洪水、氾濫が起きやすい立地と言えます。写真に示すように集水地であるために、短時間内に木道や橋が水没し、人命にも危険がおよぶ可能性もあります。



冠水した「ヨッピー橋」の写真は、東電小屋の後藤氏の撮影です。自然の猛威を実感できる貴重な資料をご提供いただき、改めて御礼申し上げます。

3. 私たちの取り組み

ひとり一人が日常に起こる食品ロスや廃プラ、レジ袋廃止などの社会問題に関心を持つと同時に省エネや再エネ等に取り組む企業の商品購入を意識して生活することが必要でしょう。

そして、本ネットワークの活動を通じて「尾瀬の美しくも脆弱な自然」が受けているダメージを調査・記録して、これを多くの人たちに伝え警鐘を鳴らし続けることが、最も重要な使命ではないでしょうか。

※P1 グラフ「尾瀬の夏日(真夏日)発生日数」のデータ資料は①尾瀬の自然保護 1~40号「尾瀬山の鼻気象観測所月報」、②尾瀬の自然保護—30年間の取り組み—尾瀬山の鼻地区気象30年—平成20年3月群馬県、③尾瀬保護財団HPの各公開データを使用。

■ 『電気バス出発セレモニー』 日に

第 1 回入山指導 (福島側)

理事/事務局長 円谷光行

2019/5/19 「福島民友新聞」 記事より

尾瀬誘客 大きな期待

電気バス運行開始

…歌も披露 式典に花…

桜枝岐村の尾瀬御池駐車場で18日に行われた、本県側から尾瀬国立公園に入るシャトルバスに導入された電気バスの出発セレモニーでは、関係者がテープカットなどを行い、シーズンの本格化を祝った。

セレモニーでは、主催者でシャトルバスを運行する会津乗合自動車の佐藤俊材社長や星光祥村長らが「自然保護の新たな一歩刻む」「尾瀬への誘客が地域の活性化につながる」などあいさつした。またオゼ・ミュージック・アンバサダーを務めるシンガーソングライターの Miyuu(みゆう)さんが「夏の思い出」を歌い、式に花を添えた。



(2019. 5.18 電気バス出発セレモニー)

この日は第1回目の入山指導初日に当たり、運行

式の様子を見ながらバス添乗解説やリーフレット配布・駐車場等のごみ拾いなど行いました。

電気バスに乗車する前は、外からはバスの中は見えなく、マイクは使用できるのかを心配しながら試乗しました。

電気バス(中国製)が、3台導入され1台27人乗りで、後ろ座席は一段高く外の景色は見やすいが、入り口から後部座席までは窓が狭くて高く、椅子が低いと外側は少し見えにくい。マイクは使用しなくても肉声で大丈夫となりひと安心、この日は、数回の添乗解説を行いました。

窓はマジックミラーが貼られ、車内からは景色は見られるようになっていました。

電気モーターのため、電車に乗っている感じで、外側でのエンジン音は静かで「二酸化炭素」排出量はバス3台分削減され地球にやさしい環境づくりの一つとなりました。

今年は4月に3回、5月のゴールデンウィークに1回の降雪があり、活動日には山々一面に残雪があり雪解けが大変遅い尾瀬となっていました。

2日間、入山指導・添乗解説・大江湿原の自然観察会などを行い通常どおり活動を行いました。



(2019.5.18 沼山峠登山出入口)

参加者 (8名) 安部、磯部、伊藤(広)、伊藤(佳)、佐久間、菅野、円谷、刀



■ 第1回群馬活動報告

群馬側担当理事 小鮎 守

6月1日(金) 打ち合わせ(前泊)～6月2日(土)

入山指導後は、尾瀬ヶ原の自然観察を実施。



天気/快晴(鳩待峠7時)

関東甲信越の梅雨入りも間近な時期ではあるが、朝6時40分、(気温13度) マルイ旅館を出発。この週末は、今季最高の人出が予想され、活動予定の鳩待峠へとシャトルバスで向かう。鳩待山荘へのご挨拶を早々に、入山指導のブースを設置し、入山指導を実施。

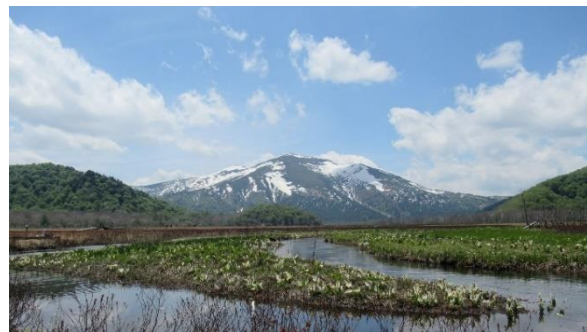


今年は尾瀬ヶ原の降雪は多かったものの、5月20日にはほとんどが消え、一部鳩待峠から山ノ鼻に残っていた。テンマ沢のミズバショウは、今が



盛りと咲き誇っていた。入山者の多くはミズバショウが目当てであり、彼らにとっては実に見ごたえのある一日となったと思う。入山者はツアー客

が多く、関西方面からの団体と台湾、中国の方々が特に目立つ。



自然観察会はツアーを逃れ、尾瀬ヶ原から下ノ大堀川へと向かう。そこには尾瀬らしい美しい景観が広がっていた。

【豪雨の後遺症】

上田代から中田代の行程の中で、先日の尾瀬の木道冠水や洪水の跡が見ることができ、改めて尾瀬は観光地ではなく山岳地帯であることを思い知らされた。また安易な観光誘致は、入山者に相当な危険性をもたらすことも実感できた。

帰路には、木道で転倒し顔面を殴打して動けない状態のご婦人に対し、上原指導員の迅速な応急措置対応、特に患部を冷却(アイシング)するための冷却療法用品も備えた措置および行動には感服した。

今回も賢明な皆さんのお力添えをいただき、活動が無事に終了できました。みなさんお疲れ様でした。

主な開花状況は、ミズバショウ、ワタスゲ、チングル、マタテヤマリンドウ、ショウジョウバカマ、チシマザクラ、ヤチヤナギなど。

参加者名(7名)

上原健司(+お嬢様/櫻子さん)、大山昌克、小鮎 守、須賀邦雄、菅野文子、高橋絹江、



■ 第2回群馬活動報告

群馬側担当理事 小鮎 守

6月28日(金) 打ち合わせ(前泊)～29(土) 入山指導などの活動を計画。入山指導後は、尾瀬ヶ原の自然観察を実施。



梅雨のど真ん中での活動となる。鳩待峠は朝7時の活動時の気温は12度。濃霧の中で活動開始。入山指導のブースを尾瀬ヶ原入口近くのブナの大木の下に設置。天気予報も霧雨と晴れ間という余り期待できない状況であり、入山者も出足が鈍い。

【外来種調査】

入山指導の合間に外来植物の観察、調査を行う。鳩待峠周辺では、『外来植物の見本市』を思わせるほどである。これらが尾瀬ヶ原へ向かうのは必至であり、このまま放置してはならない。



<ヨーロッパ原産コテングクワガタの花園-6/29>

山の鼻では前回(6/1)と違い、緑一面の草花が咲き競っているものの、特に気になるのはヨーロッパ原産の外来植物であるコテングクワガタ、オランダガラシである。まさに両者のお花畑のような様子。第4次学術調査でも外来植物の侵入の脅威を強く指摘されているにも関わらず、なぜに野

放し状態なのか。どうにかならないのですか？ここは特別保護地区です。尾瀬の在来種の住みかが、どんどん減少していてもなぜに対応をしないのか。

鳩待峠～山の鼻間の林内では、サンカヨウやツバメオモトは早くも実を付け始めていた。天候の悪化が予想されるため、自然観察会は山ノ鼻植物研究見本園へ向かう。



<ミツガシワ>



<ヒメシャクナゲ>



<チングルマ>

天候を常に気にしながらの活動ではあったが、怪我なく下山できた。自称「晴れ男」のお天気おじさんと尾瀬に感謝です。みなさんお疲れさまでした。

主な植物としては、ウワミズザクラ、チングルマ（実）、サンカヨウ（実）、ツバメオモト、レンゲツツジ、ミツガシワ、ヒメシヤクナゲ、ホロムイソウ、エンレイソウなど。



< 巣を壊されたイワツバメの新たな巣づくり（山ノ鼻） >

参加者（6名）

伊藤アケミ、大山昌克、小鮎 守、
初谷 博、藤澤 一博、長島睦世

事務局だより

●2019 年度後半の企画へ引き続き積極的にご参加ください。お待ちしております。

日程	企画	
8/31-9/1	【特別研修】 尾瀬を知る大清水～尾瀬沼	群馬側
9/7-8	【特別研修】 奥只見ダム+田代山自然観察会	福島側
9/20-21	尾瀬ヶ原環境調査	群馬側
10/5-6	入山指導/尾瀬沼散策/バス添乗	福島側
10/12-13	2019 第 2 回 尾瀬アカデミー（合同研修）	福島/群馬

●尾瀬アカデミー（2019）が今年も開かれました。福島県はじめ、東京、埼玉、群馬、栃木各県から 9 名の方がご参加されました。

第 1 回研修は、既に群馬側 7/6～7/7、福島側 7/13～14 に開かれ、尾瀬でフィールド研修を受けていただいております。第 2 回目は群馬側、福島側合同で行われる予定です。（10/12～13）

尾瀬アカデミーの詳細は、次回（2019/11/20 発行）の会報紙面でご案内します。

【編集後記】

2018 年 9 月に「新・尾瀬ビジョン」のお披露目があった。この新ビジョンに基づく具体策の一つが表面化してきた。2019 年 6 月 23 日付けの福島民報の記事によると、『尾瀬国立公園の魅力向上のため……「会津沼田街道」に光を当てる取り組みに乗り出す。歴史を紹介する多言語標識の整備、峠の眺望確保などを検討しており、環境省も支援する考え。』と報じている。この記事の後段には、『沼山峠や片品村の三平峠では、昔の眺望を再現するため、展望台からの眺めを向上させることを検討する。』『眺望確保には樹木の刈り込みが想定され、環境省は関係する林野庁や文化庁など各省庁間の調整を図る考えだ。』と報じている。自然公園法の目的には「生物多様性の確保に寄与すること」が明記されているが、眺望の確保が優先するようだ。（大山）

NPO法人

尾瀬自然保護ネットワーク

Vol.22. No.2（2019 年 8 月 20 日）

発行人：磯部義孝

編集担当：大山昌克

Web担当：鈴木誠一

■本部事務所（事務局）

〒969-0404 福島県岩瀬郡鏡石町旭町19円谷様方

電話/FAX0248-94-5003

info@oze-net.com<info@oze-net.com

■群馬支部

〒371-0846 前橋市元総社町2-21-12 小鮎様方

電話/027-251-1089

http://www.oze-net.com/